（様式第１号）

令和７年度長野県公衆衛生専門学校評価表

長野県公衆衛生専門学校

第１　重点目標

１　中・長期目標

歯科衛生士法に基づく専門的知識や技術を積極的に学び、地域社会に貢献する意識をもつ歯科衛生士を養成する	
取組状況	学校全体で様々な機会を通じて、学生自身が生涯を通じて歯科衛生士として働いていくという自覚を持てるよう取り組んだ。。 歯科医療業界の近年の状況や課題を取り入れた講義や実習を実施し、学生が卒業後に対応することになる地域の状況や環境等を内容に加えた。さらに地域特性やその地域で抱える課題を意識できるよう、実習の組立を行った。第三次健康日本 21 でも提唱されている「ライフコースアプローチ」を踏まえた健康づくりが重要になってくることも鑑み、地域医療における長期にわたる患者との関わりとその変化等についての症例を事例とした特別講義を受講することで、卒業後の歯科衛生士として地域に携わる意識、意欲を高めることができており、結果的に地元に貢献するために卒業生全員が県内に就職した。 加えて歯科衛生士法の改正により男性の入学者も想定されることから、今年度より学生の実習衣のデザインを刷新した。男女分け隔てることなく歯科衛生士を目指せる環境を整え、多くの人材が歯科衛生士として地域社会に貢献できるよう環境を整備した。
今後の取組	今後も引き続き、学生が歯科衛生士を目指して前向きに授業や実習に取り組めるよう、支援していく。
評価	適切

２　今年度の重点目標

長野県歯科口腔保健推進条例に謳われているオーラルフレイル対策等の新たな知見を教育に取り入れ、現在の歯科医療業界のニーズに対応した人材を育成する	
取組状況	歯科医療の最新情報を講義に取り入れるとともに、専門分野の講師による特別講義等を実施し、新たな知見を導入するよう心掛けた。 また、信州保健医療総合計画の施策の展開に基づき、摂食嚥下機能や訪問歯科診療に関する講義や実習を行っている。今年度はICFの考え方についての特別講義を実施し、将来的に多くの高齢者や障がい者に関わる事ができる知識を培った。 また、看護学のカリキュラムを変更し、より全身疾患保有者に対する対応法を深く学び、それを踏まえて高齢者施設実習等で実践力を高めた。さらには３年次に入院患者に対する口腔健康管理の取り組みを間近で見学できる病棟実習を実施した。 加えて、今後ますます需要が高まるであろう訪問歯科診療に対応できる歯科衛生士の育成を目指して、ポータブルユニット、咬合力測定器を導入した。
今後の取組	今後も継続して超高齢化社会に対応でき、かつオーラルフレイル対策の一端を担える歯科衛生士の育成に力を入れていく。
評価	適切

キャリアデザインを意識した教育を行い、個々の特色を生かした就職活動を支援する	
取組状況	就職対策講座やキャリア形成のための特別講義等を行い、生涯に渡って歯科衛生士として働くための人生設計等に認識を深めた。 また、個別進路指導で自分の適性や就業の責務について振り返る場を設けた。 ２年生はキャリア教育の一環として、歯科衛生士の活躍、職域の広さについて調べ、発表の機会を設けた。各分野における歯科衛生士の活躍を知ることで、将来への希望や自身の人生設計の参考になった、と多くの感想が得られた。 １，２年生には１月に開催される県歯科衛生士会主催シンポジウムの紹介を行い、幅広い職域で活躍する歯科衛生士について担任より説明した。
今後の取組	３年生については学生が自分の特徴を理解し、明確な目標をもって卒業までの課程を進めるよう教育活動を行う。 さらにその目標を就職活動に活かせるよう、個別指導を充実させていく。
評価	適切

理念、目的、育成人材像、特色等を広く広報し、本校の魅力を発信することで学生確保に努める	
取組状況	学校公開を年６回行っている。特に本校の体験入学の特徴である、学生と参加者のコミュニケーションの時間を充実させることで、歯科衛生士の職業理解と学校の特色の理解に効果的だった。 中南信地域の高等学校を訪問し、学生募集を周知した。今年度は本校の特色をまとめたチラシを作成し、各高校や５郡市歯科医師会へ掲示等依頼した。 今年度は初めて中学生対象の体験入学の開催や、伊那市内中学校、駒ヶ根市キャリアフェスティバルなどにも参加することで、多くの中学生に歯科衛生士の職業周知を行った。特に体験入学では参加者への歯科衛生士の職業周知を目的としていたが、同伴した保護者に対してもアピールすることができ、さらには地元の専門学校の存在を周知することができたため、大変効果的であった。伊那市内中学校における講座では口腔健康を通して歯科衛生士や本校の魅力を発信することができた。
今後の取組	現在の広報に加え、ホームページ等で歯科衛生士業務の魅力発信の充実を図るとともに、本校の特色を発信していくことで、学生募集、強いては歯科衛生士の確保を目指していく。
評価	適切

第２　評価項目

１　教育活動

（１）教育理念・目標

評　価　項　目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1
学校の教育理念、目的、目標を定め、育成する人材像は専門分野の特性を生かしているか	(4) 3　2　1
教育理念等が学生・保護者等に周知されているか	(4) 3　2　1
育成人材像は歯科医療業界のニーズに沿っているか	(4) 3　2　1

①　課題

学生、保護者に継続した周知を行い、学校が目指す人材像を共有する。

②　今後の改善方策

ホームページや全校集会、保護者会等を通じ、さらなる教育理念の周知に努める。

③　特記事項

専門分野の特性を活かし、社会や業界のニーズを把握し、人材育成像が合致しているか常に意識する。

（２）学校運営

【運営組織等の機能有効性】

評　価　項　目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1
教育目標に沿った事業計画が策定されているか	(4) 3 2 1
運営組織は規則で明確化されているか。また、有効に機能しているか	(4) 3 2 1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	(4) 3 2 1
予算執行が適正になされているか	(4) 3 2 1
コンプライアンスが実践され、また実践のための体制が図られているか	(4) 3 2 1

①　課題

特になし

②　今後の改善方策

今後もホームページ等を活用し、学校運営状況を公開していく。

③　特記事項

学校に御協力いただいている郡市歯科医師会に会議報告を行う。

【学校案内と学生の確保】

評　価　項　目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1
学校案内等の各種資料を作成、配布し、広く情報提供を行っているか	(4) 3 2 1
学校公開を開催し、本校の魅力を PR しているか	(4) 3 2 1
関係団体等と協働し、学生確保に努めているか	(4) 3 2 1
令和８年度の入学定員を確保できたか	(4) 3 2 1

①　課題

歯科衛生士という職業の認知度が低く、歯科衛生士養成校への関心が薄い。

②　今後の改善方策

学校公開の内容や開催時期等を見直し、より高校生が魅力を感じるものに修正するなど工夫を続ける。

中学生への職業周知を継続していき、長期的な視点で学生確保に取り組んでいく。

学校案内の掲載写真数を増やし、普段の学生の様子が視覚的に伝わるよう工夫する。

外部機関が実施する職業体験イベントに積極的に参加し、職業周知と学校周知の機会を多く持てるように協力体制を継続していく。

③　特記事項

学校公開の周知について、５郡市歯科医師会に当校および学校公開についての掲示等周知のご協力を依頼した。

また、体験入学では卒業生からの視点で本校の魅力を PR してもらい、保護者からも好評だった。

長野県立木曽病院主催の医療職体験会、飯伊地区包括医療協議会主催の飯田下伊那医療職体験会に参加し、歯科衛生士の職業紹介および当校の紹介を行った。

入学試験については「指定校推薦入学試験」を新たに設け、歯科衛生士を目指す生徒がより当校を選択しやすくなるよう環境を整えた。

【ホームページの充実】

評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
本校の魅力を発信するホームページとなっているか	(4) 3　2　1
受験生への情報等､必要な情報提供が適切に行われているか	(4) 3　2　1
閲覧しやすい構成になっているか	(4) 3　2　1

①　課題

歯科衛生士の特性を活かした写真で講義風景や地域と関連した実習、各種行事等の内容を公開しているが、学習状況の具体的発信が少ない。

② 今後の改善方策

学校での講義や実習風景等をカリキュラムと併せて発信することで、高校生等に入学後の具体的な学習状況や学校生活スタイルを PR する。

③ 特記事項

臨地実習とその特別講義の様子を関連付けて発信することで、当校のカリキュラムの理解につながっていると考えられる。

（３）教育活動

【教育理念に則った教科活動】

評　価　項　目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
教育課程は、教育理念、目標等に沿って体系的に策定されているか	(4) 3　2　1
キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立った科目等が設定されており、関連団体との連携による工夫・改正など内容の見直しが行われているか	(4) 3　2　1
授業評価を実施する体制は組織されているか	4 (3) 2　1
教員が先端的な知識･技術等を習得するための研修や指導力育成など、資質向上のための取組が行われているか	(4) 3　2　1

① 課題

科目により授業評価を実施しているが、学校全体として評価する体制が組織されていない。

② 今後の改善方策

今後も学生アンケート等で授業に関する意見を集約する方法を検討する。

令和８年度に向けてカリキュラムを変更した。特に主要３科目の科目進度を見直し、より効果的に習得できるよう構成した。今後は各科目の授業計画もブラッシュアップしていく。

職員研修については、県歯科衛生士会主催研修会のみならず、歯科医師のスタディグループの研修会等にも積極的に参加し、知見を広げている。今後授業内でその内容を学生にフィードバックしていく。

③ 特記事項

４科目で授業に対するアンケートを実施した。内容を精査し、改良していきつつ活用できる範囲を検討していく。

【授業・実習内容の充実】

評　価　項　目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1
グループワークなど様々な授業方法を取り入れ学生が主体的に学べるよう支援したか	(4) 3 2 1
歯科医療現場の現状を把握し、現場の課題を学生に示すことができたか	(4) 3 2 1
臨床実習では、教科で修得した理論や技術を臨床の場で応用できるよう、臨床的技能や態度について実習できたか	(4) 3 2 1
臨地実習では各施設の特色や利用者の特性を習得できる実習ができたか	(4) 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

引き続き、教科の学習内容と臨床・臨地実習施設での教育内容について、関係機関と協議、検討して、技術革新する歯科医療現場の技術や知識を講義等に取り入れるとともに、基礎的理論に基づいた実習ができるよう協力体制を維持していく。

また、臨床・臨地実習に向けて学生と個別面談を実施し、引き続き学生個々に応じて態度面、技術面など多面的、主体的に学べるよう支援していく。

今年度より病院実習に病棟見学実習を組み込み、より重要性が高まっている口腔健康管理への知識、技術を学ぶ機会を増やした。

③　特記事項

３年生が歯科衛生学会に参加し、歯科業界の現状や新しい知見を学べる機会となった。

２年生も県外歯科大学における解剖学見学実習を実施することができ、人体への理解と医療倫理についての意識を深めている。

さらに実習終了後は報告会を設けて他学年にも実習の成果等を発表することで臨床現場、実習の心構え等を共有できる場となり、意欲的に実習に臨むきっかけになっている。

臨床・臨地実習の評価表を見直し、実習態度をより客観的に評価されることで学生の実習に向かう意欲、社会人として求められるルールが明確になった。

学生が超高齢化社会においても多角的に歯科医療に関わるための知識、技術の向上を図るため、訪問歯科診療用ポータブルユニット、生体モニターを購入した。

【学習成果】

評　価　項　目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1
歯科衛生士国家試験の合格に向けた授業を実施できたか	(4)　3　2　1
地域歯科医療に貢献できる人材育成を視野に入れた教育と就職指導が実施できたか	(4)　3　2　1
職員会議等を通じて学生の学習状態や就業希望等を共有し、教員全体が共通意識のもとに対応できたか	(4)　3　2　1
卒業後のキャリア形成について情報提供し、学校の教育活動に活用しているか	(4)　3　2　1

①　課題

特になし。

②　今後の改善方策

卒業生の就業等については個々の相談体制は整っている。今後も卒業生の相談に応じられるよう、開かれた学校を維持していく。

難易度が高まっている歯科衛生士国家試験に対応できるよう、国家試験補習講義や模擬試験等をより効果的に運営していく。

③　特記事項

卒後１年目の卒業生については就職報告会を開催し、就業状況や１年目の悩み、やりがい等を在校生に聴講させることで具体的な進路決定やキャリアビジョンに活用できるよう工夫をしている。

地域のボランティア活動の周知を行い、多くの学生が参加したことで地域とのつながりや交流が生まれた。県立校に在籍している学生としての意識も向上したと考えられる。

歯科と全身疾患の関係性がより深くなっており、検査数値からの出題にも対応していくため、国家試験補習講義に新たに「臨床検査」を取り入れた。

（４）学校生活支援

【生活指導、学生支援】

評　価　項　目	適切：４、ほぼ適切：３、やや不適切：２、不適切：１
学生の安全管理のための取組や指導がなされているか	④ ３ ２ １
保護者からの支援体制や連携は図られているか	④ ３ ２ １
挨拶の励行や身だしなみについて TPO に合わせた指導が実施できたか	④ ３ ２ １

①　課題

スクールカウンセリングを利用する学生等が増加している。

②　今後の改善方策

引き続き、医療機関に勤務する者としての自覚を促し、社会的ルールの大切さについて学習する機会を設ける。

スクールカウンセリングを今後も継続し、学生が少しでも心穏やかに学修に取り組める環境を整えていく。

③　特記事項

第１基礎実習室のエアコンを更新し、学生が技術習得に集中できる環境を整えた。

挨拶、TPO については学活や臨床・臨地実習オリエンテーション時に繰り返し学生に指導しており、普段の学校生活では挨拶が習慣化されている傾向が見られる。

令和７年度はスクールカウンセリングの利用回数が多かった（R7 実績 27 回）。これは学生の状況に応じて、担任からスクールカウンセラーに繋ぐことができていることが要因と考えられる。